

十字架と平和

シリーズ～福音の力～

2020/08/02 平和祈念礼拝

75回目の原爆の日

- 残念なことは、世界から核兵器がなくならなかったこと
- 良かったことは、核兵器が一度も使われなかったこと
- 残念なことは、相変わらず武力が外交の道具になっていること
- 残念なことは、相変わらず多額のお金が入殺しの道具やそれを使うための人々のために使われていること

スペイン風邪と戦争

- 1918年から20年にかけて世界的に大流行した「スペイン風邪」
 - 3000万～5000万人以上の死者を出した
 - 日本でも45万人が亡くなったと推定されている
- 感染源とみられるアメリカから、感染した兵士がヨーロッパ戦線に送り込まれた
- 塹壕で対峙していたドイツ軍・連合軍の兵士たちに瞬く間に広まった
 - スペイン風邪の大流行で、戦争どころではなくなり、1918年11月に終戦となった
- 終戦後兵士たちが各国にウィルスを持ち帰り、さらなる大流行となった

スペイン風邪と戦争

- 1918年から20年にかけて世界的に大流行した「スペイン風邪」
 - 3000万～6500万人以上の死者を出した
 - 日本でも45万人以上の死者が出ている
- 感染源とみられるアフリカから、感染した兵士がヨーロッパ戦線に送り込まれた
- 塹壕で対峙していたドイツ軍・連合軍の兵士たちに瞬く間に広まった
 - スペイン風邪の大流行で、戦争ではたけなわ
- 終戦後兵士たちが各国にらなる大流行となった

**感染症は人間社会
が対立するとき
流行する！**

こんな時だからこそ
団結して立ち向かわなければならぬのだが...

なぜ団結（一致）できないのか

- 人間が2人いれば対立が起こる
- それは、人間が本来自己中心であり、自分の利益を優先するからである
- 聖書はその性質を「罪」と呼んでいる
- 反対に、自分の利益を放棄、あるいは後回しにし、相手を優先することを「愛」と呼んでいる
- しかし、この地上の利益だけを考えるならば、愛は損であり、単なる飾りに過ぎない
- ただし、自分にとって大切な相手に対しては「愛」を発揮する

コロサイの信徒への手紙1章19～23節

神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、**その十字架の血によって平和を打ち立て**、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。

しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。

ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

神が示された完全な見本

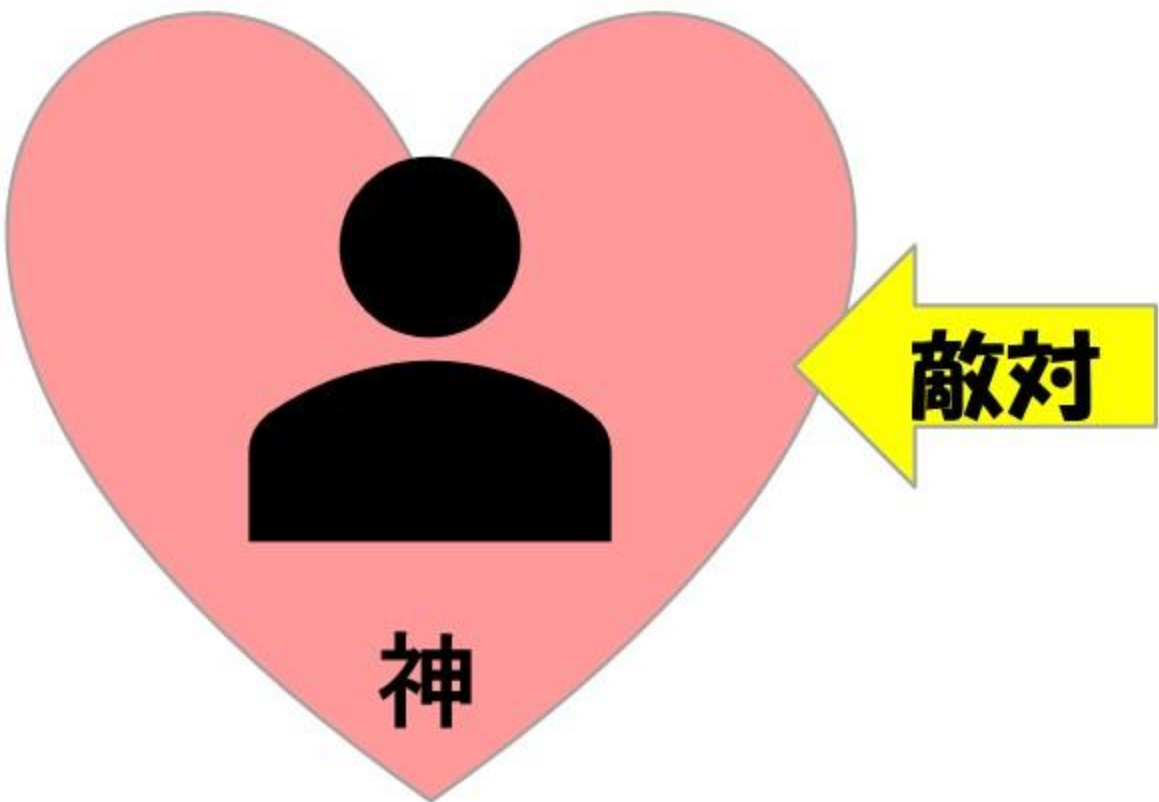
- 神に敵対していた私たち(罪を犯していた)
 - 「あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。」
 - 本来なら私たちが赦しを請うべきなのに
- 神の「満ちあふれるものを余すところなく」宿して人となられたイエス・キリスト
 - 「神は愛である」
- 十字架の血によって打ち立てられた平和
 - 「その十字架の血によって平和を打ち立て、…万物をただ御子によって、御自分と和解させられました」
 - 神ご自身が犠牲になられた(愛を示された)

完全な見本に習う

- キリストの死によって私たちの罪は完全に取り除かれた
 - 「御自身の前に**聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者**としてくださいました」
 - 神との和解が成立しただけではなく、私たちを完全な者とみなして下さった！
- 私たちもこの福音に立つ
 - 「揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。」
 - 神が、御子によって示された完全な見本に習う

十字架と平和

- 私たちは神に敵対していた(罪)
 - 汚れて、傷だらけで、とがめることだらけだった
- 神は私たちを大切に思われた(愛)
 - 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世(私)を愛された。」
- 私たちを赦し、罪なき者とするために、御子イエス・キリストを十字架にかけた
 - 神は極限の犠牲を払い私たちは無限の利益を得た
- 十字架によって神と私たちとの間に完全な平和が打ち立てられた！



罪

汚れ・傷・咎め

平和

イエス・キリスト

聖なる者
傷のない者
咎めるところのない者



~~罪~~
汚れ・傷・咎め

神

